

教材教具および題材	学部	授業名（主たる教科領域）	執筆者
おすし屋さんであそぼう	小	グループ学習 高学年ビーバー （図画工作）	竹下久実

<ねらい>

- ・教師と一緒にいろいろな素材を変化させたり、作ったりする活動を楽しむ。
- ・様々な活動をたっぴりと楽しむ中で、手指の働きを高めるとともに身近な道具を使うようになる。
- ・ものを自分から操作したり変化させたりして、結果が見通せるあそびに教師とやりとりしながら取り組み、あそびの世界を広げる。
- ・あそびを通して、自分の思いや要求を身振りや言葉で表現する力を豊かにする。

<内容（作成方法・使用方法・工夫点など）>

- ①絵本『いろいろおすし』の読み聞かせ
- ②おすしをつくろう

・シャリ

紙粘土（白）を俵形にして型に入れて挟み、はみ出た粘土を取り除いて、取り出す。

・ネタ

たまご：紙粘土（黄）を手のひらで平らにし、画用紙（黒）で巻いてテープで留める。

サーモン・マグロ：紙粘土（白）に絵の具（朱色・赤）を出し、色が混ざるまでこねて、手のひらで平らにする。

いくらの軍艦巻き：シャリを画用紙（黒）で包み、紙粘土（赤）を細長く伸ばしてへらで小さく切って丸めたものをのせる。

③回転すし屋さんあそび

長机をカウンター席に見立て、しょうゆ（小皿に画用紙（茶）を丸く切ったのせる）、お茶（紙コップにお花紙（緑）を丸めて入れる）を配る。空き箱をひもでつなげ、その上に皿に入れたおすしをのせたレーンを机上にセットし、ひもを引っぱって動かす。児童は、すし屋役と客役を交代する。

すし屋役：客役にメニュー表を渡して注文を聞く。

注文されたおすしをトレーの中から2貫皿に入れてレーンにのせる。

客役：メニュー表の中から好きなおすしを選んで注文する。

おすしが流れてくると、自分の注文した皿を取って食べるまねをする。

<良かった点・改善点（児童生徒の反応を含め）>

- ・おすし作りは、毎回同じものを作るシャリ部分と毎回変えるネタ部分があり、手順を覚えて自分からどんどん取り組めたところと、今日は何を作るか楽しみにしながら毎回新しいことに取り組めたところがあってよかった。
- ・白粘土に絵の具を混ぜ込むときには、手に絵の具が付くので汚れることを気にして触れない児童もいたが、手拭きタオルを用意することで拭きながら自分で色が出るまでこねることができた。
- ・絵本の読み聞かせでまずイメージをもち、イメージしながら作ったおすしをのせた皿が絵本のように動いて、食べるまねをして楽しむことで、よりイメージを膨らませておすし屋さんあそびに取り組むことができた。

<その他（材料、費用、購入先等）>

軽量粘土（白、黄、赤）、粘土遊び用おすし型（ダイソーで購入）、色画用紙（黒、茶）、お花紙（緑）、紙コップ、皿、粘土板、へら、空き箱、ひも

